クローバーだより

2022年１月１４日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
林　ともこ

子どもを育てる時に大切な４つのこと　PARTⅡ

今回は、生きる力と考える力を育てるために大切な４つの力を育むために大切なポイントの２つをお伝えします。

③大人の物差しを押し付けない

親がついついやってしまいがちなのが、「大人の基準・物差し」を無意識のうちに押し付けてしまう教育です。たとえば、子どもが「〇〇になりたい」と一見無謀な夢を語った時に「それは無理だよ」と口走ったり、子どもが空想話をした時に「そんなのありえないよ」と否定したり・・・。子どものうちは、大人の「常識」や「物差し」を無理に押し付けず、その子の豊かな発想力や想像力を育むことが大切です。たとえ「子どもにちゃんと現実をおしえないと」という好意からであったとしても、子どもが語る夢や想像に対してネガティブな反応を示すのは可能な限り避けるべきです。ですので、突拍子もない事を言ってきたとしても、その時は創造力を膨らませている、夢を見ている時間と割り切りましょう。

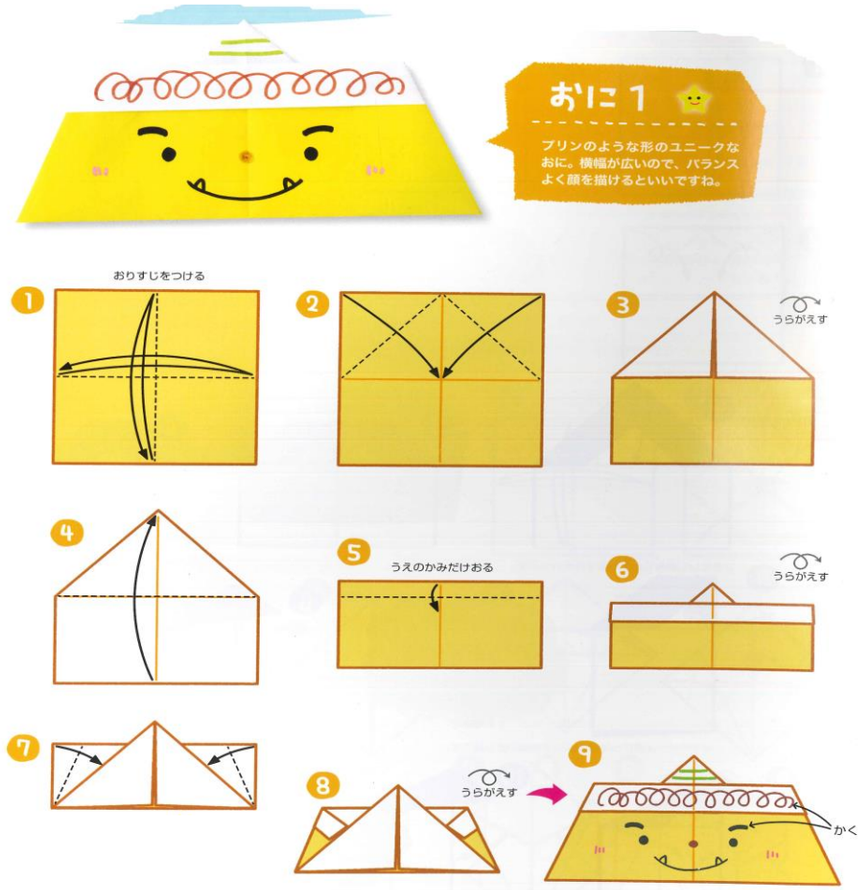
④短所を直すのではなく、長所を伸ばす

子どもがたくましく生きていくためには、本人に自己肯定感を持たせてあげる教育がとても大切になります。その自己肯定感を育むためのキーとなるのが、「短所を直すのではなく、長所を伸ばしてあげる」という教育です。

短所は誰にでもあります。それは子どもも大人も変わりません。子育てにおいては、長所を大きく伸ばしてあげる教育のほうが、はるかに価値があると思っています。または、短所をちょっとした長所に変えていってあげることも大切です。この年代で短所と決めつけてしまうのは早く、特に 12 歳以下の年齢であれば、性格を変えていくこと自体まだまだ脳みそが柔らかいので可能です。運動嫌いが運動好き、あまり笑わなかった子がユーモアになったり、わがままな性格が社交的な性格になったりと、短所だった部分を長所に変えてしまう事だってよくあります。

子ども達の可能性の種を咲かせるのも咲かせないのも、対応する人次第です。子ども達の可能性をつぶさないように、そして想像力を広げることができるようにしていってほしいと願います。想像力は、「自身が経験していないことや未来のこと、現実には存在しないことを、頭の中で思い描く力」です。相手の立場や状況、表には現れていない相手の気持ちを想像し、関わる事が出来るようになります。この時期にたくさん想像する経験をしていってほしいですね。

おりがみ



かぜに強い体を作る免疫アップの食事

よく食べて、寝て、遊んで、笑う。子どもにとっては、そのような毎日が、自然と免疫力を高めていくことにつながります。それでもこの季節には、かぜに負けない体作りを意識した食事をとりましょう。ビタミンA、C、Eを含む緑黄色野菜や果物は、ウイルスに対する粘膜の免疫を高めます。これに、良質なたんぱく質を含む卵、魚、肉、大豆製品を組み合わせて体力をつけましょう。また、胃腸を丈夫にすることもかぜの予防になります。規則正しく、偏食のない生活を心がけて、元気に冬を乗り切りましょう。

食べごよみ　節分の豆

節分とは、「季節を分ける」ことを意味し、江戸時代以降は、特に立春(毎年２月４日頃)の前日だけ示すようになったといわれています。炒った豆を年神様に供え、その豆を「おには外、福は内」と呼び立てながらまきます。昔から穀物や果物には、「邪気をはらう霊力」があると考えられ、豆をまくことで邪気をはらい、福を呼び込むと考えられています。まかれた豆を自分の年齢の数だけ食べ、１年の無病息災を願う風習もあります。日本の伝承行事を子どもたちにも伝え、大切にしていきたいですね。

《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。
TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています